令和６年度　全国学力・学習状況調査結果の分析

山北町教育委員会

令和６年度全国学力・学習状況調査が、令和６年４月 18 日に全国の小学校６年生及び中学校３年生の全児童・生徒を対象に実施されました。

この調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的にしています。

その結果が、８月に文部科学省から送られました。学校は、教科ごとに児童・生徒一人ひとりに個人票を返すとともに、全体の結果を分析したうえで指導と改善に努めています。

【教科に関する調査】

教科による内容項目において県公立学校と比較したところ、良好な点及び課題点は次のとおりでした。なお平均正答率では、小学校では国語、算数において県平均よりやや低い状況でした。中学校国語は県平均と同程度、数学においてはやや低い状況でした。

≪小学生≫

〇国語　目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く問題ができていました。根拠を基に話し合う対話的な学習の実践や、授業の中で自分の考えを書きまとめる学習の成果が表れています。一方、目的に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討することに課題が見られました。

〇算数　円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題については、高い正答率でした。また、直方体の見取図について理解し、かくこともよくできていました。一方、速さと道のり、時間の関係について考察することや、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述することに課題が見られました。また、問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題の誤答が多く見られました。

≪中学生≫

〇国語　表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題についてはよく書けていました。記述式の問題については県平均を上回りました。物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものを選択する問題に誤答が多く見られました。文の成分の順序や照応についての理解に課題が見られました。

〇数学　問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算については、高い正答率が見られました。一方で、数と式の領域において、等式を目的に応じて変形することについて（６X＋２ｙ＝１をｙについて解く）は正答率が低い結果となりました。また、筋道を立てて考え、証明する問題では課題が見られました。また、記述式の問題では無解答が見られました。

【児童・生徒質問紙調査】

生活面や学習面に関する質問が、小学校 63 項目、中学校 65 項目で行われました。小中学生ほとんどの児童・生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えており、人権意識の高さが見られます。「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対しても小中学生共に多くの児童生徒は肯定的に答えており、学校生活を前向きに捉えている様子が見られます。しかし、否定的な回答の児童生徒もおり、学習や行事等、友だち関係も含めて充実感を感じられるようにしていく必要があります。

令和４年度より町が推進している「０歳から 15 歳までの一貫教育・保育」で大切にしている「自己肯定感」に関わる質問では、「自分にはよいところがあると思いますか」に対し、多くの児童・生徒が肯定的な回答をしています。また、「非認知能力」に関わる質問の「人が困っているときには進んで助けている」について肯定的に答えている児童生徒が多く、仲間を思いやる気持ちが育まれていることが伺えます。この点に関しては、昨年度から引き続きの結果となり、乳幼児期から大切にしてきた「自己肯定感」や「非認知能力」に関わる育ちが、着実に小・中学校へと引き継がれてきた成果が表れていると考えられます。今後も、園・小・中の連携を引き続き深めていく必要があります。

小中学生共に、「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に対して肯定的な回答が多くみられました。グループ活動など、協働的な学びを取り入れた学習による成果が表れていると考えられます。

小中学生共に、休日の学習の時間については 1 時間未満の児童生徒が多かったです。学び方の道筋を示し、自ら考えて家庭学習に取り組んだり、具体的にやるべきことを示したりするなど、家庭学習の在り方について考えていく必要があります。

スマートフォンなどで SNS や動画の視聴について、小学生は「携帯やスマートフォンを持っていない」割合が高く、4 時間以上視聴する児童は少なかったです。一方、中学生になると所持率も上がり、４時間以上視聴する生徒が多くみられました。家庭での使い方の約束を守っている生徒が多い一方、「約束はない」と回答する生徒も見られました。、保護者と約束を決め、安全、安心、有意義に使えるようにしていきたいと思います。

【今後の取り組み】

① 園・小・中学校の教職員が、互いの教育・保育について、より深い理解と子どもたちにどのような力がついたのかという視点で検証し、授業改善に取り組みます。
② 乳幼児期の教育・保育で大切にしてきた「非認知能力」「自己肯定感」を継続して育んでいけるように園・小・中の連携教育のさらなる充実を図ります。
③ 学校では学習習慣定着の一環として家庭学習の重要性や目的について再確認し、児童・生徒、家庭と共通理解を図って取り組みます。
④ 小中学校ともに、漢字や計算など基礎的な知識技能等の確実な定着に向けた学習に取り組みます。
⑤ 協働的な学びと個別最適な学びを効果的に活用し、思考力・判断力・表現力の向上に努め、学習に意欲的に取り組める場を設定していきます。